

宇都宮大学共同教育学部附属中学校 3年

岩佐 葵

駅から伸びるまっすぐな道路。その中央をすべるように進む黄色と黒の路面電車。私が住む宇都宮市に開業したLRT（次世代型路面電車システム）である。このLRTに対し、開業前の私には「税金の無駄遣いなのではないか。」との思いが少なからずあった。その理由は簡単だ。私は沿線に住んでいないため乗車する機会がなく、約六八四億円もの税金がLRTに投入されることに損をした気分になっていたのだ。どうせなら私に関係あるものに税金を使って欲しいとまで思っていた。

宇都宮市がLRT導入を決断した背景には「子どもから高齢者まで誰もが豊かで便利に安心して暮らすことができ、夢や希望がかなう」スーパースマートシティの実現を目標として掲げていることがある。誰もが自由に移動できるまちづくりの基軸にLRTを据え、脱炭素型ライフ・ワークスタイルへの転換や外出機会増加による健康増進および地域経済の活性化につなげていこうとしている。では、実際にLRT導入による効果は出ているのか。先日、開業から一年を迎え、累計乗客数は当初予測を二割ほど上回る約四七三万人を超えており、沿線の人口増加や地価上昇といった経済波及効果も生んでいると報道された。地域の足として受け入れられ定着しつつあることを知り、これは税金の使いみちとして適切であったと言えるのではないかとこの思いが芽生えた。そして、税金について正しく理解していなかった自分が間違った判断をしてしまっていたことに気がついた。税金は医療や道路、教育や防衛などさまざまな形で使われている。税金はやみくもに配分したり、個人の利益のために使うものではない。また、納税している人だけがサービスを受けるものでもない。どこかで誰かの助けになっているということを再認識する機会となった。

今後少子高齢化がさらに進み、税を納める人は減少するのに福祉や医療に使う税金はますます増大していくことは想像に難くない。だからこそ、貴重な税金をどこに配分し何に使うのか、それらは適切に活用されているのか今一度考える必要があるのではないだろうか。そして、私たちは税金に対して学びを深め正しい知識を身に付けることで、納税の意義や役割、正しい税金の使いみちを判断できる視野の広い大人に成長していくことが可能であると考えます。社会基盤を支え、私たちの豊かな暮らしを未来へ繋げていく役割を担っている税金。これからは何気ない毎日の生活の中で誰かの尊い税による恩恵を受けていることに感謝し、教科書や施設を大事に使う自動車ではなくLRTを利用する、など自分にできることを積極的に行うことで貴重な税金を大切に使いたい。まだ子供だからと大人に丸投げするのではなく、関心を持ち続け行動に移すことが将来の納税者である私たちに求められていると思う。